

氏名	巻 幡 博 之		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 673 号		
学位授与の日付	昭和50年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	リポ蛋白リパーゼに関する研究 1. ヘパリン静注後血漿リポ蛋白リパーゼ活性についての研究 2. 経口糖負荷試験時における内因性リポ蛋白リパーゼ活性並びに脂質の変動について		
論文審査委員	教授 小坂 淳夫	教授 大藤 真	教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

動脈硬化症とヘパリン静注後血漿リポ蛋白リパーゼ活性(以下PHLAと略す)に関し従来種々の説が存在していた。著者は第一編において正常人と動脈硬化症患者のPHLAを測定し動脈硬化症患者に5%以下の危険率でPHLAの有意な低下を認めた。更に加齢による生理的減少を認めたので、これを明らかにする目的で家兎を用いた動物実験を行なった。即ち家兎を野菜食群、オカラ食群、ラノリン食群の3群に分け6カ月間経時的にPHLAを測定し加齢による変化を観察した。各飼育食群共に経時的なPHLAの生理的減少を認め、中でもラノリン食による高脂血症家兎では他の群に比べより早期にPHLAの減少を来たした。6カ月間の血清学的検査を行なった後に家兎を屠殺し、組織学的検査を行なった。ラノリン食群に著明な動脈硬化症の所見を認めたがオカラ食群には動脈硬化症の所見は認められなかった。6カ月めのオカラ食群とラノリン食群のPHLAを比較し、ラノリン食群に有意の低下を認めた。

第二編ではヘパリンを静注することなく血中に存在するリポ蛋白リパーゼ活性を内因性リポ蛋白リパーゼ(以下ELPLと略す)活性と云う。正常人並びに糖尿病患者に50g経口糖負荷試験(以下OGTTと略す)を行なった際に出現するELPL活性が正常人では2峰性の活性曲線を呈するのに、糖尿病患者では1峰性の活性曲線を呈し両者の間に相違をみたので、これを明らかにする目的で家兎を用いた動物実験を行なった。家兎にOGTTを行なった際にELPL活性は非糖尿病状態(オカラ食群、ラノリン食群)で2峰性の活性曲線を呈し、糖尿病状態(アロキサン糖尿家兎群、ステロイド糖尿家兎群)で1峰性の活性曲線を呈した。同時にOGTTを行なった際の脂質の変動をも合せ観察した。又家兎にステロイドホルモンを注射しステロイド糖尿

家兎を作成する過程における脂質の変動を観察した。同時にOGTTを行なった際の脂質並びに主要脂酸構成の変動をも合せ観察した。

論文審査の結果の要旨

本研究は動脈硬化症，糖尿病などのさいのリポ蛋白リパーゼ活性の変動を臨床的ならびに実験的に検討したもので，新知見に富む価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。